

全体研修(提案授業) 3年B組 社会科授業リフレクション

平成25年4月24日(水) 授業者 渡慶次 靖

1 学級の様子について(学級担任: 神山康平先生)

学級では女子が元気で中心となって、学級全体を盛り上げている。授業の中でも各グループを見渡した時に、女子を中心に対話がスタートしている。

数名は学び合い、話し合いに参加できない生徒がいるのが現状である。それを授業、学活等でサポートできたらいいなと思っている。学級全体としてはとてもいい学級で、協力し合えるとても素晴らしい学級だと感じている。

2 授業の振り返り(授業者: 渡慶次靖先生)

時間が足りなかった。とてももったいないと思った。展開しながら「あいやー」と思った。2年の時に勉強した既習事項を呼び起こしながらイメージできる様に、うまい具合にサポートできればよかった。全体的にうまくいかずにもったいないと思った。

授業としては、新政府の改革方針が江戸と180度違うということを新旧対照させて、どんな国づくりをこれから進めていくのかを資料を通して学ばせたかったが、そこまでいかなかったので、次の時間はこれを土台にもう一回取り上げてみようかと考えている。

いつもK君とMさんをどのようにして教材に向かわせようかと考えている。K君に関しては、今見ている範囲では突っ伏すことはあまりない。Oではないけど、ほとんどない。どちらかというところ、普通に意欲的に学習に参加して口数もあるので、そんなに気にならない。

Mさんに関しては難しいものがある、Mさんへのアプローチ、教材をどうしようかと悩む。この2人がうまい具合にくらいついていけば大概の生徒は大丈夫だと思う。

授業の中でちょっと学びが停滞するとおしゃべりが出たり、学習内容に関係ないおしゃべりが出てくることがある。このことに気をつけながら、準備をしてしっかり考えたり、学ばせたりという雰囲気を作れたらいいと思った。

子どもたちが言っていることを見取れなかったこともたくさんあるので、先生方に聞きながらつなげていきたいと思います。

3 研究協議(参観者から: 割り当て班, 教科, 本校勤務年)

(1) 吉武佳穂先生(A班, 理科, 3年目)

今さっき出ていたK君がいる班。誰か1人がずっとしゃべるのではなくて、全員が1番最初の課題が出たときにすぐに知っている漢字から、「結婚したらダメって書いてあるから、これって武家諸法度じゃない」と最初にSさんが言っていた。知っている単語を見つけて、お互いに顔を見ながら上手につないでいた。K君は3人に比べたらちょっと声が少なかったが、お互いに顔を見ながらできていた。H君がK君の顔を見て声をかけたら、そこからK君が話しだして、メモを積極的に紙に書いて参加していたのでよかったと思う。

2つめの課題は文字を読むのが難しかったみたいで、「漢字は何て書いてるのかな」と集中していて、その話でA班はストップしていた。

(2) 稲嶺尚幸先生(A班, 理科, 1年目)

お互いの意見をよくかわしていた。「これ、こうだからこうじゃない」「じゃ、これこうなるからこうじゃないかな」とグループの仲間に問いかけているのが見られたのでよかったなと思った。課題が難しかったのか、Sさんが話をそれそうになった時にH君が「それは、ちょっと置いといて」と軌道修正できていた。

また、「明治時代だから武家諸法度か?」「鎖国ってなんだったかな?」というのを自分達で考えながら自分達で振り返りができていたので、とてもよかったと思いました。

(3) 與那嶺紀子先生（B班，家庭科，1年目）

Sさんがプリント見たときに「社会わからなーい」と言っていたけど、Eさんが一生懸命わかる漢字を読んでいたから、一緒に考えたりしているのが見えた。最初はEさんがいっぱい発言していると感じただけど、「わからないから教えて」と隣のJ君に言ったら、J君の言葉が少なかったけど、「うん、これは禁止だからだめじゃない」と教えたりしていたり、読めなくても一生懸命読める単語を見つけたり、先生が「文章が難しいから言葉でもいいよ」と言ったら、1つ1つの単語の意味を書いたりしていた。こういうのが学び合いなのかなと思ひ、こういう授業は初めて見たので勉強になりました。

(4) 東江敏也先生（B班，社会科，1年目）

チェックポイントの時に、生徒が解いている間、渡慶次先生は手に何をメモしていたのですか？
→正解の生徒に発表させる為。

BグループはEさんを中心にグループ活動をしていた。最初の武家諸法度の時も最初に、Eさんが訳して、J君は一生懸命口数少なく考えて、Sさんがヒントを言った。「結婚するのはだめ？」って言った時にEさんが「じゃこれ、武家諸法度じゃない？」誰かがヒントを出して「これじゃない？」という学び合いを初めて見たんだけど、これが学び合いなんだと改めて実感できた。

(5) 松田尚人先生（B班，社会科，2年目）

EさんがリードしながらSさんが疑問を投げかけた時に、この2人がJ君に問いかけて、いい感じで3名での学びが発生していた。意味があるグループ活動だった。3人が学習からそれることもなく、コミュニケーションを取っていて「これはこうじゃない？」「私はこう思うよ」と議論しながら、3人で1つ1つ解読したところは答えを書いていた。字がはっきりと見えない所があって、難しく読めない所があった時につまづきがあったが、所々で靖先生の一言でつながって、ただ難易度が高かったが、ジャンプや背伸びの課題ももう少しでつながっていたので、もうちょっとで解けていけるといところまで見えた。難易度の高いすごい授業だなと思った。

(6) 伊藝正乃先生（C班，国語科，1年目）

初めの課題のプリントを渡されると4人が自分の知っている漢字を見つけたり、あるいは参勤交代という文字を見つけて「こんなだったんじゃない？」過去に習ったことを呼び起こして話を進めていた。Aさんが「一万石という言葉の意味がわからない」と投げかけるとR君が「こういうことじゃないか」とフォローをしていた。2つめのジャンプ課題の所でとても難しい課題だったが、R君がみんなが見やすい位置に置いていて（写真①）、それにみんなが同じ視線でこれは何かな、とお互いに話をしていた。レベル10は結局誰もわからなくてレベル8までいっていくつか読める漢字が出てきたけど、R君が「漢字がわかって意味がわからないな」と言ったときに、ちょうど靖先生が「教科書にレベル5の問題があるよ」と言ったら4人も一斉に教科書を開いて、声を出して確認している様子があったのですごいなと。この誰もわからない課題を最初に出していたから、みんなが教科書のレベル5の問題を確認したいという気持ちになったのかなと思った。



(7) 比嘉司先生（C班，保健体育科，2年目）

最初のプリントをやるときにK君がSさんの答えをのぞきながら一生懸命に書いていた。あんなK君を見たのは始めてだったので感動した。K君が起きて笑顔でしゃべっているのは、なかなか見れないので、社会の授業は楽しいんだと思った。みんなでしっかり意見を聴き合って、話し合いをしていると感じた。初めR君がリーダーになって、ボードを立ててボソボソとしゃべるが、みんなが聴き合っていた。まとまるということはなかったが、最後のレベル5に移って文章の意味が分かったとき、Aさんが「じゃ、これ後ろの方に載っているんじゃない？」と教科書をめくり始めた。意欲をもって探そうとしていたのがすごいと思った。ここでNさんが「みんなまとめ

て書こう」と言ったらみんな黙って書き始めたので学び合っているなと感じた。

(8) 佐藤繁先生 (D班, 国語科, 2年目)

このグループの一番のキーはR君だと思うんだけど、最初の課題の時にさんが座っていてその隣にR君が座っているけど、全然目を合わせなくて真ん中に持って行って話が始まって、メガネをはずして鉛筆を置いたまま上を向いていて、3人との会話が全然ないまま続いた。3人が話しかけるわけでもなく3人がR君をどうやって扱うかわかっていると思った。不思議なことにジャンプの課題になって難しい字を先生が見せた時、グッと入って机に置かれた瞬間こうやって見て、こうやって指を指して、何か言いたそうにしているけど言葉にならない。あの状況を見た時にジャンプの力がすごいなと思った。この3人はR君のことを無視しているわけではなく、時々「なー」と言って声をかけるんだけどそれに対してR君が何かしゃべるわけではないけど、見えない学びを感じて、すごいなと思った。ジャンプってすごく重要だと思った。

その後もこの体勢のままずっとこの子たちの顔をみながらR君はこのままの状態。これが目線を外れても飽きることなくずっとこの状態のまま聴いている。これが学びなのかなと思った。

先生が教科書(教材)に目を向けさせた瞬間の4人の目が「ここにあったのか」と。それまで探求して頭をいっぱいに使ってわからない、わからないときにヒントがこの中にあると思ってパッと開ける仕草が素敵だなと思った。一生懸命になっているので、ここの部分(写真)しか見えない。だけど、ここ(写真の隣)に文章が書かれてあって、武家諸法度の意味が書かれているのにも気づかない。この子達の頑張り、集中力をすごく感じた。これが「学び」なんだなと再確認できた。

(9) 砂川貴代先生 (E班, 養護教諭, 3年目)

共有課題の時にM1さん、H君中心に進んでいて、K君が途中で発言が多くなって一緒に考えていた。M2さんは無駄な話をするということにはなかったが目がうつろな感じであくびをしたりしていた。課題には目をやっていて、やっと発言したと思ったら「今、なんて言った?」「なんて書いてるの?」と聞いて、一生懸命書こうと努力しているのは見られた。

ジャンプの時は、最初盛り上がり途中で止まった時に、靖先生が「ちょっと書いてごらん」とアドバイスした時に、M1さんが1つ答えを見つけたら、K君も乗ってきて「自分にもわかる答えがあるよ」と話をしだした。後半は発言が少なくなってきたけど、じっくり考えているなと思った。難しいからこそ発言は少ないけど、一生懸命考えているなという様子が見られた。M2さんとK君は終わり頃は少し集中は切れていたけど、無駄な話もなく一生懸命考えていたと思った。

(10) 神山康平先生 (E班, 数学科, 1年目)

学級の中ではこのグループが一番ネックになっていると感じていて、特にM1さんは元気があってリーダーシップを取ろうとするが、誰かに「教えて?」ではなくて課題をパッと見せられたときに、ボソボソとしたことから広がって、そのスタートはやっぱりM1さんで自然とボソッと書いたことに対してH君が乗かって、それにK君が乗かってプリントに書き込んでいくことが始まったので、「教えて?」という質問からの学びではなく、つぶやきからの学び合いが広がっていくのはこのことだと思った。K君は最初あまり関心がなかったけど、M1さん・H君が入ってきたら、途中から関心を示し始めてグループ活動が始まってきた。M2さんは入れないでボーっと見ているような状態だったが、最後の方で靖先生がアプローチかけて他の3人に対するのとは別の視点で、「M2さんは今言ったことに対してどう思う?」とM2さんが答えられそうなアプローチの仕方したら「自分もそう思う」と言った。学び合いの中でつまづきのある子達へのアプローチのかけかたが勉強になった。

(11) 比屋根渚先生 (F班, 英語科, 1年目)

まず、課題を見たときに私もできないな、難しいなと思った。1人でもしこの紙を見たら諦めると思う。このグループでも「だめだー」という言葉がSさんから出てきて、このときに個人だったらここで終わるはずだけど、今回Eさんが「じゃ、もう1回最初から見てみよう」ともう1

回最初から見て難しいと思ったけど、これが誰も置いていかれない課題であり、みんなが発言できるチャンスを持っているし、どんどん先につながっていく課題なのかなと思った。

課題設定が難しいなと感じて、靖先生の発言が少なかったのに、あれだけみんなが聴き合える（言い合える）授業がつくれるのがすごいと思った。私もどんどんチャレンジしたいと思った。

(12) 津波古健先生（F班，音楽科，3年目）

リーダーをしていたのはEさんで、だけど最初はSさんが見てわからないと思った瞬間、パッと2人に見せた。Eさんが進めるけど、K君が入りきれない。同じテニス部の2人だけの会話だったけどEさんがフッとK君に振った時に、「こんなじゃないか」と言ったときに学び合いが出た。ほっとかない、引っ張っていくというのが表れた。残念ながら彼が発言したのはこの時だけだったけど、プリントを触りながらやっていたので置いていかれたくない、中に入るぞという努力は感じた。

(13) 波照間香織先生（F班，数学科，3年目）

最初の復習の時、淡々と黙々と普通の表情だったけど、靖先生が武家諸法度の解説が難しそうな課題を出したときに3人は笑顔になってとても喜んでいて。最初の印象的な表情だった。読めなくなるとだんだん表情も暗くなるが絶妙なタイミングでレベル8になった。また「お！」という気持ちが沸き起こってきた。

だけど、またわからなくなってEさんが途中で「頭が痛くなってきた」と言ったが、いいタイミングで靖先生が来て質問したり、「よく考えたね」「たいしたもんだ」と言われEさんがまた笑顔になった。先生と生徒の関わり、うまく学びの中に入っていくタイミングが勉強になった。

4 授業改善に向けて（渡慶次靖先生）

授業の形式形態にとらわれずにとりあえずは個別、グループへの介入をしないでおこうと思って、とりあえずこれで通してみようかな、このグループでどうなのかなというのに比重を置いてグループ活動的なものを入れた。

ボードは子供たちの勉強の跡が残るようにすれば次につながられると思って書かせながら作業をさせた。たいていのグループが自分たちの言葉にはできていないけれども、なんとなくわかっているような、あと一息で文章化までできるんじゃないかというのが、あのパネルの中にあるので、そこもまた授業につなげていけたらいいと思っている。

課題としては画像も悪かったけど、まずはわからないものと思って、通常低いところから上に上げていくのを今回は高いところから階段を下げていって、また振り返らせて高いものと対比するという形をやってみた。これが良かったかどうかわからないけど、いろんなことを試しながらやっていこうと考えている。

5 指導助言

(1) 久高利美子教頭

最初の提案授業で先生方のイメージが持たんじゃないかと感じた。私も子供たちを見ていてさすが3年生、落ち着いていて、この授業スタイルをととても身につけているという印象だった。この学び合いのいいところだなと思うのが、生徒が「弓を馬に乗って、パッ！」という言葉が発した時、これは日本語ではなく言葉として相手に伝わる言葉ではないのだけど、靖先生がそれを受け取って対応しながらやるんだけど、書いている言葉を自分の言葉で言い換えることができる、それをさせるのがこの学び合いのいいところなんだというのがこの授業でよく分かった。自分の言葉で言い換えることができるか（活用できるか）という場面なので、そのところが「あっ、いいな」と思っていた。

課題にぶつかった時に自分が持っているどの根拠（情報）を引き出して会話していくかというところで、先生方が「関わり」というところで研究協議できていてこのスタイルもいいと思うが、

これから2回目、3回目と回数を増やしていくと、どこで学び合いが発生したのかというところの意見交換がどんどん出てくると、たぶんこの研究協議が深まると思った。

佐藤先生が言った「ジャンプ課題の時にみんなの目つきが変わっていた」とか「R君がジャンプに飛びついてた」ということを聞くと「この課題はOKだったんだな」と授業者も思うし、そこで学び合いが発生したかという感想をそれぞれが言うとおもしろいんだな、と思って聞いていた。

それから、司先生が言っていた「K君は自分の授業ではこうだから、K君の最初のこの姿が印象的でした」というところで、それぞれの授業で気になっている子どものことを挙げながらやっていくと靖先生は「K君は社会は好きだから、ここで引き上げよう」という視点をお互いで持ちながらできるんだと思いつきながら聞いていた。

(2) 神元勉校長

①机の並べ方について→机がきれいにくっついているかどうか。鞆が横に下げられていないか。鞆はロッカーに整理整頓すること。(写真②)

②ロッカーについて→今はスタートしたばかりだからこんな状態だけど学習用具を持ち帰ることができなくなると3学期には目も当てられなくなる。こんなに物があると鞆は入らない。(写真③)

③黒板の前にいらぬ机を置いたりしてバリエードを作らない。(写真④)

④必要なものだけを机の上に置いて、必要ないものは机の中に入れて、共有の空間をしっかりと取ってあげる。(写真⑤)

⑤復習プリントは必要であったか？僕は必要ではないと思っている。なぜなら、今日の学習内容にほとんど関連していない。今からやろうとする共有課題に必要な材料を確認するためのものだったらいい。プリントをしながらお互いに「わからないところ教えて」というのがあまり見られない。ただ、自分だけでやっている。K君がのそきながらやるくらい。

⑥導入について→導入に10分かかっている。7分以内には共有課題に入った方がいいと言われているのが、10分も前時の復習をすると子どもたちは飽きてくる。極力、共有課題には5分くらいでストンと入ってほしい。

⑦プリントを解き終わったらその場で綴らせる。綴れない子がまだいる。その場で綴らないとこのプリントが紙飛行機になる。丁寧に穴を開けてあげるとか、ノートに貼るんだったら糊をしっかりと準備してその場で貼らす。

⑧教師はどんと構える→一生懸命学び合いをしているのだから、教師は前でドンと構えておく。班に任せて全部見渡して、「あ、あの班盛り上がっていないな」という班に支援に行けばいい。教師が歩き回りすぎるとかえって邪魔をすることになる。折角グループで学び合っているのに先生がちょっかいを出すと思考が止まったり、学び合いが止まったりする。本当に支援が必



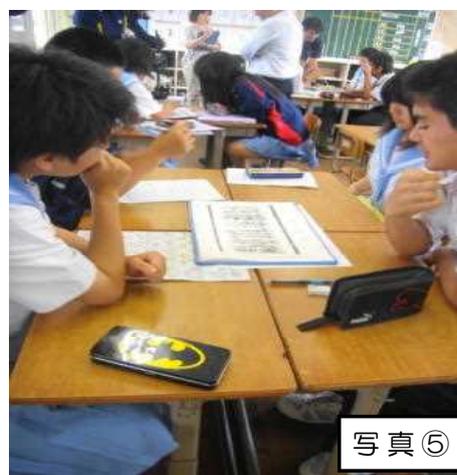
写真②



写真③



写真④



写真⑤

要な生徒やグループへのケアだけでいい。もっと子どもを信用する。

- ⑨共有課題が終わって先生が「前を向いて」という時に、前を向いている子が少ないので、「体を向けて聴く」ことを徹底して欲しい。
- ⑩できるだけ授業には具体物、半具体物を提示すると4名がモノに集中する。
- ⑪男子1人、女子2人の3名グループ。男子1人ではダメ。女子は1人でいい。男子2人女子1人。女子は3名でもいい。男子を1人にすると学びに参加しにくい。女子は1人でもしっかりとした子であれば、女子1人、男子3名でも大丈夫。男子は必ず複数。
- ⑫生徒が発表しているんだけど、ほとんど発表者の方を向いていない。教師は前に座って、生徒の発言やつぶやきをしっかり聴き、生徒と生徒、生徒と教材とを「つなぐ」「もどす」ということをすればいい。ここで「〇〇さんどう思う？」と切り出す。最初のうちは訓練だから「〇〇さんのところを見て聞いてあげてね」という指示も出しながら、「今の意見に対して〇〇さんはどう思う？」と他の生徒とつないだり、教科書にもどしたりという仕事をここでやればいい。もう少しドンと構えて最後までこっちに座って、教師の仕事である「聴く」「つなぐ」「もどす」という役割をやってほしい。そうしないと形はコの字でグループを入れたけれども、学び合いにならないという場面が出てくる。3年生は2年目なので子どもたちは慣れてきている。あとは教師の力量。教師のしかけ1つでグンと伸びる。そのへんを勉強してほしい。
- ⑬あまりしゃべり過ぎない。歩き回らない。テンションを上げない。子どもを信用する。子どもの言葉でまとめる。説明したがる。教師の言葉でまとめない。子どもの間違いから発展する学びもあるから、間違いを取り上げて、それを学びの広がりにつなげればいい。
- ⑭私は初任だから私は2年目だからではなく、みんなスタートしたばかりだから経験年数は関係ない。

(3) 宮城尚志指導主事

- ①今日よかったのは課題設定。公開授業というのは構えるものじゃない。学びへの関心を示すと小さな感心。
- ②「聴き合う」ができていない。尋ねるはできている。言葉が出ているのに言葉がどんどん重なっている。小学校1年生は言葉が重ならない。言葉が重ならない「聴き合う」を是非つくってほしい。
- ③先生が歩く度に学びが切れる。せっきく話し合っているのに、生徒は「先生」と言う。いなければ自分たちで学び合いが深まった。学び合っている時は放っておく。佐藤先生と津波古先生が話していた場面はたぶん見れてないと思う。なぜか？気づかずに他のところの相手しているから。座っておけば見れる。明らかにケアが必要なのはR君とMさんだった。R君が乗ったのがジャンプの課題のあの場面だった。そういった場面を見るためには、座って全体を見渡さないといけないと思った。
- ④真面目な教師ほど、わかっているかを確認めたがる。それはやらないでいい。わかっているかどうかは彼らの対話から読み取る、聴き取るイメージでやっていこう。
- ⑤やたらと言わせよう、言わせようとしなくていい。対話レベルでいい。「わからなかったらきいてごらん」「聞こえた？」とつなぐという感じでいい。それで充分。そうしたら静かな授業ができていく。
- ⑥時間で決めない→あと1分、あと30秒、と時間で決めない。教師のしっかりとした自分たちの目で見取る。今日も後半うるさくなってきていた。うるさくなってきたときはチョコレートの話とかラーメンの話とか、課題に関係のないことになってきた。その時はボリュームが大きくなってくる。一旦切る。時間をあてにしない。どこで切って戻したりするかを教師の見取りですること。間違ってもいい。時間に縛られると「その時間内にできなかった自分は？」ってなる。私たちの目指す子どもから離れていってしまう。
- ⑦いい時期に授業を見せ合えたことはよかった。